

## ◆家庭教育支援フォーラム◆

### 村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和3年7月5日（月） Zoom アプリを使ったオンライン開催
- 2 参加対象 放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会担当者等、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター関係者、幼稚園・保育園職員、各小中学校教職員、高等学校教職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア関係者（参加者453名）
- 3 内容（講話）**テーマ：**「放課後子ども総合プランと家庭教育支援から考える地域づくり」  
**講師：**廣瀬 隆人 氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事）
  - ・「前提」を問い直す
  - ・教育と洗脳のちがい
  - ・子供とのコミュニケーションの勘所
  - ・安全、安心第一という正論が生むもの
  - ・虐待とは何か
  - ・親子のスキンシップ、体罰、愛着障害
  - ・地域づくりとは
  - ・地域福祉とは



- 4 感染防止対策 Zoom アプリを使ったオンライン開催
- 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）
  - ・自分の頭で考えさせることや問題行動の背景、どうしてそのように行動するのかという視点をもって子供たちの未来を考えていくことなど、今後意識していきたいことを教えていただきました。
  - ・何が原因でこの行動をとっているのか。そこに問題行動を解決するヒントがあります。子供の言葉やしぐさ、行動をよく見てその子供に合った対応をとっていきたいです。
  - ・今日のようなお話は全年齢の方に必要なお話だと思います。ぜひ子育てを始める前段階の方に聞いてほしいです。それから親になれるといいと思います。まず大人（周りにいる全ての大人）が変わらないと、子供は変わらないと思います。
  - ・地域づくりとのかかわりの部分で、大石田町でも鷹巣地域は昔ながらの地域ぐるみの子育てに力を入れていることを改めて感じる部分があり、地域や人と人とのつながりづくりの大切さを感じています。地域全体で支えるための土台づくりに、図書館としても手立てを考えていきたいと思っています。
  - ・子供の成長には家庭だけ、学校だけの関わりではなく、地域も含めての総合的な関わりが必要なのだろうということをあらためて感じました。

## 村山地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和4年2月24日（木） オンライン開催に変更
- 2 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育園職員  
(参加者24名)

### 3 内容（講話）

(1) 講話 テーマ：「子育ての『今』～親と子、家庭と地域をつなぐ支援を～」

講師： 曾根 章友 氏（東北文教大学短期大学部現代福祉学科 准教授）

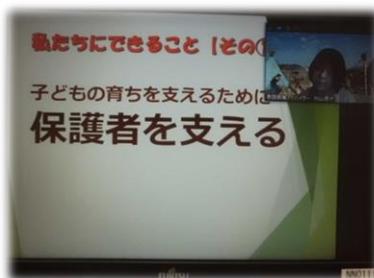
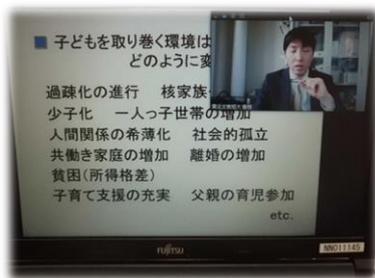
- ・子どもを取り巻く環境はどのように変化したのか
- ・子どもと子育て家庭が抱える福祉的問題とは
- ・現代社会にある福祉的問題の根深さ
- ・どのような支援が求められるか

(2) グループワーク

テーマ：「今、われわれ大人にできることとは？」

ファシリテーター：村山 恵子 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

- ・講話を受けて…課題と解決するためのアイデア
- ・情報の共有
- ・私たちにできること



4 感染防止対策 オンライン開催への変更

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・私たちが手を差し伸べても関わりをもつことに抵抗がある方もいると思いますが、今日のように1人でも多くの方が問題について考えるだけでも一歩ずつ前に進むことができると思いました。
- ・ときどき遊びに来る子供たちを見ていて、少子化という地域の特性もあり、安心して思い切りけんかもできない現状に気づきました。また、親の前では心配をかけたくないと、ちょっとがんばってしまう様子も見られました。学校と家庭だけでは、子供も親も先生も息詰まってしまうなあと思っています。みんなの心の逃げ場として地域の中に安全基地があればいいなと思います。
- ・(グループワークでは)「支援の必要な方に相談いただけない」という声が印象的でした。地域の方とあいさつからつながりをつくることや、イベント時での相談窓口の設置など、様々なアイデアが出され、参考になりました。

## 最上地区「家庭教育支援フォーラム」

- 1 期日・会場 令和3年9月11日（土） 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、最上地区PTA 母親委員、保育所・幼稚園・小中学校職員等  
(参加者40名)

### 3 内 容

(1) 講話 演題 「現代の子育て・親育ち」

講師 寒河江 亜衣子 氏

(公認心理師・臨床心理士)



- 子どもの発達を、『脳の発達』から捉え直す。
  - ・10代は前頭葉が未発達→自己コントロールができないから、中・高校生になるほど、親が管理すべき。
- 子育てを考える
  - ・ネット依存はプロセス（行為）依存。学習不適應や対人関係スキルの乏しさを、「他に価値を置けるものがないこと」が依存リスクを高める。ごく普通の困りごとを一緒に解消していくことも、大切な依存予防である。
  - ・現代の大人は、『客観的視点』を子どもに注入することが必要。
- 日常の中で『普通を変えていく』ことの提案
  - ・大人を苦しめるたくさんの『普通』がある。母親たちへの圧が強い世の中、苦痛や屈辱を我慢せず、もっと声を上げてよい。

### (2) ワークショップ

テーマ：学校で抱えている家庭教育支援に関する課題や、効果的な取組み



### 4 感染防止の工夫

会場とオンラインのハイブリッド開催にした。会場でのグループ演習の際にはパーテーションを使用した。

### 5 参加者のアンケートから

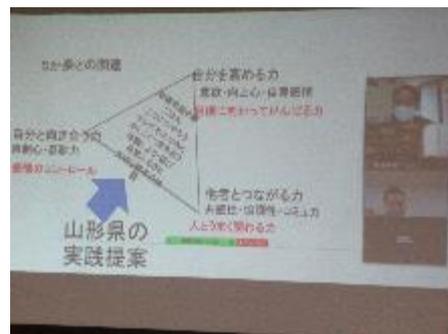
- ・思春期ではまだ脳が発達途中であるので、親が子の前頭葉を務めるようにするという話、自己管理は無理と心得て、主導権を握りながらも子どもと一緒に考えていくという話など、子育てに悩む親として、大変ためになる話でした。
- ・脳の仕組みの観点から、普段は聞くことのできない貴重な話を聞いて本当にありがたい機会でした。

## 置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和3年5月26日（水）  
置賜総合支庁西置賜振興局 講堂
- 2 参加対象 県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、子育て支援担当者（参加者25名）
- 3 内 容  
(1) 置賜地区の家庭教育アドバイザーの紹介  
大村 亨夫氏、小野 卓也氏、黒田 三佳氏、高橋 まゆみ氏、高瀬 尚美氏  
(2) 講演「非認知能力とやまがた子育て5か条」  
講師 大村 亨夫氏（山形県家庭教育アドバイザー）

### 【要旨】

- ①非認知能力は大切な力とはわかりつつどうすれば育つのがわからない。
- ②認知能力と非認知能力を比較
- ③やまがた子育て5か条の成り立ち
- ④非認知能力の3つの枠組みとやまがた子育てか条の関連
- ⑤今までの活動を非認知能力のフィルターを通してみる
  - ・協働的活動（遊び）
  - ・結果よりも取組みの過程を重視
- ⑥生涯の学びを支えるのが非認知能力であるという意味で、子どもから大人まで重要な力である。



## 4 感染防止の工夫

- ・参加者同士の接触回避のためWeb会議「Zoom」を利用したオンラインと参集のハイブリットで研修会を実施した。
- ・参集者…入り口での手指消毒、マスクの着用、座席の距離



## 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・非認知能力とは、聞いたことはありましたが、よくわからなかったもので、具体的に教えていただき、とても勉強になりました。
- ・日々の活動を非認知能力のフィルターを通して振り返ること、まずは明日の保育の中から考え、今後活かしていこうと思いました。
- ・非認知能力とやまがた子育て5か条との関係が深く理解できました。

## 置賜地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和3年9月16日（水）  
置賜総合支庁西置賜振興局 会議室
- 2 参加対象 保育士、幼稚園教諭、県家庭教育アドバイザー、市町行政職員（教育委員会・福祉部局）、公民館・コミセン・交流センター職員、民生委員、児童員、PTA関係者、NPO団体等（参加者38名）
- 3 内 容

### (1) 講演「遊びの中で子どもは豊かに育つ

～未来を生きる子ども達に必要な力とは～

講師 阿部 彰氏（パリス保育園 園長）

#### 【要旨】

- ①将来子どもに必要とされる能力が非認知能力
- ②非認知能力は気質や性格ではなく、意図的に高められる認知能力と影響し合って伸びる
- ③パリス保育園の事例紹介
- ④遊びによって未来を生きる力が育つ
- ⑤未来を生きる力とは、認知能力と非認知能力とが響き合う力
- ⑥環境や教材を与えただけでは非認知能力は育たない。私たち大人の関わりが大事
- ⑦子育てや保育は思い通りにいかないもの。それでも良い。思いさえあれば。粘り強くあきらめずがんばりましょう。



### (2) ワークショップ「明日から使える！遊びのプログラムを作成しよう！」



## 4 感染防止の工夫

- ・コロナウイルス感染拡大の時期であり、参加者同士の接触回避のためWeb会議「Zoom」を利用したオンラインと参集のハイブリットで研修会を実施した。
- ・参集者…入り口での手指消毒、マスクの着用、座席の距離

## 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・日々の保育の遊びの中でも、子どもの何を育てていきたいかということ保育士の中で計画を立て、子供たちとの遊びに繋げていかなければならないことを改めて考えるよい機会となりました。
- ・子どもたちの健やかな成長のためには、家庭や地域で子どもと接する大人にも豊かな非認知能力が必要であると感じました。
- ・ワークショップでは、それぞれの園の方々の話がとても身近なものとして感じられ、明日から使えるようなワードもたくさん飛び交いました。とても実りのある研修会となりました。

## 庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和3年6月30日（水）・三川町子育て交流施設テオトル
- 2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、  
県家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者48名）
- 3 内 容  
(1) テーマ：「心を育む親子の対話  
～やる気と思いやりとレジリエンスを育てよう～」  
(2) 講 師： 山形県スクールカウンセラー 佐藤節子氏

- ・アイスブレイキング（あいこじゃんけん、自己紹介「4つの窓」）
- ・レジリエンスとは
- ・ソーシャルスキル基本スキル
- ・アドラー心理学が教えるコミュニケーション
- ・反映的な聴き方
- ・勇気づけの言葉 等



## 4 感染防止の工夫

受付時の検温、手指消毒、マスク着用の徹底、出入口の一方通行

## 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・自分が働いている現場でも活用していこうと感ずる方法があり大変勉強になりました。先まわりして大人がやってしまうのではなく、子どもに考えさせ、行動させ、それを支えていけるようにしていければと思いました。
- ・「すごいね」「えらいね」という言葉を使っていることが多かったので、勇気づけの言葉に代えていきたいと感じました。また、反映的な聴き方もとても大切なことだと改めて気づくことができたので、保育の中で生かしていきたいです。
- ・「感情を育てる」という言葉がとても心に残りました。子どもの心の中のモヤモヤを言語化・カテゴライズする手伝いをするのが大人の役目だなと感じました。仕事に限らず、様々な場面で役立てられそうです。
- ・ふだん子どもの親と接していてもうまくいかないと思うことについて、「完ペきでなくていい」「そのままでいい」という言葉を、これからの親との関係づくりに生かしていきたいと思いました。



## 庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和4年2月25日（金）・「Zoom」を利用したオンライン開催
- 2 参加対象 県家庭教育アドバイザー、市町行政職員（家庭教育担当者）、庄内総合支庁子ども家庭支援課職員等（参加者26名）
- 3 内 容 ワークショップ形式のセミナー
  - (1) テーマ：「家庭教育支援の現場の声を聴く」
  - (2) 事例発表： NPO法人明日のたね 伊藤和美氏・丹治亜香音氏  
 家庭教育支援チームSR会 中里小枝氏・歌川裕氏

### 【明日のたね】

#### ○明日のたねについて

- ・人と人が関わり、ふれあい（交流）、ちがひ（多様性）を理解しながらともに生きる楽しさを実感できる社会になることを目指して活動している。
- ・地域全体で子どもや子育て家庭を見守り育てる環境づくりが私たちの活動。

#### ○いちばんの目的

- ・東日本大震災や新型コロナウイルス感染症等いつ何が起きてどうなるか分からない。想定を超えて時代が変化しているからこそ「自分で考えて、自分で判断して、自分で決めて、自分で行動する」子どもに育ててほしい。親の私たちもそうありたい。

### 【SR会】

#### ○SR会について

- ・子どもの自立を目指し、子育てについて悩んでいる保護者の支援を目的として、これまでの経験を活かして、気軽に話すことができる環境づくりを目的とした傾聴活動を展開。講演会・親子体験型講座・懇談会を開催したり、相談を受け付けたりしている。

#### ○家庭教育推進のための課題

- ・相談者が必要としている情報の届け方
- ・いつでも気軽に集い、話し合える場所の設置と紹介

#### ○SR会の課題

- ・子育て世代へのアプローチが届かない
- ・SR会としてチーム支援を試みたい



## 4 感染防止の工夫

Web会議「Zoom」を利用したオンライン開催

## 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・「明日のたね」と「SR会」のお話は、「コロナ禍でもできることを！」という前向きな姿勢を学び、家庭教育を推進する一職員として考えることが多かったです。
- ・様々な支援活動に参加する方や施設の利用者が何を考え、何に悩んでいるのか、あるいは何を幸せと感じるのか、楽しいと感じるのか、その気持ちの本質と向き合うことの重要性を再認識し、そのための対話の積み重ねの大切さを改めて感じました。
- ・家庭教育支援の現場において、支援する側、される側という垣根は常に低くあるべきで、子どもやその家族だけでなく、携わるすべての人が、社会全体で家庭教育、社会教育を支えていくという当事者意識を持つ必要があるのだと感じました。

## ◆読育推進ネットワーク研修会◆

### 村山地区「読育推進ネットワーク研修会」

#### テーマ「つながり」

- 1 期 日 令和3年12月2日（木）
- 2 会 場 寒河江市立図書館
- 3 参加対象 市町教育委員会担当者（家庭教育・幼児共育、読書活動・図書館）、  
公立図書館（室）職員、市町児童福祉部局担当者、  
各市町子育て支援センター関係者、小・中学校教職員  
読み聞かせボランティアサークル及び読み聞かせボランティア  
(参加者36名)

- 4 講 師 ○事例提供・館内施設見学  
寒河江市立図書館 館 長 志田 紀子 氏  
館長補佐 高子 英晴 氏  
○読み聞かせ講座  
山形県家庭教育アドバイザー 渡邊 裕子 氏

#### 5 内 容

##### (1) 事例提供

- ・館内施設見学・・・「児童コーナー」の見学、展示の工夫のしかたの紹介など
- ・企画事業やボランティア団体の協力を得て実施している活動など

##### (2) 読み聞かせ講座

- ・生涯における読書活動の重要性
- ・本を通じた人との関わりについて
- ・選書のアドバイスや間の取り方など

##### (3) 情報交換会

テーマ「本好きな山形の子供を育てるために」



#### 6 感染防止対策

- ・参加人数の制限 ・受付時の検温 ・少人数のグループ編成 など

#### 7 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・図書館における読み聞かせでもっとボランティア団体の方、学校の方等と連携をはかりながら進めていきたいと思いました。図書館同士の連携も、もっとできたらより楽しい図書館作りができるのかなと思います。（図書館職員）
- ・今までどおり、自分も楽しみながら、読み聞かせをしていけばよいことを学びました。（読み聞かせボランティア）
- ・自分が好きな本を選びがちだが、いろいろなジャンルを選んで読みたいと思いました。（読み聞かせボランティア）
- ・絵本の良さを改めて感じ、普段忘れていた大切なことに気づけたと思う。本を読む時に、子供が感じる思いを大切にしたい。（子育て支援関係者）

## 最上地区「読育推進ネットワーク研修会」

### テーマ「乳幼児期から育む読育の方策」

- 1 期日・会場 令和3年11月4日（水） 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象者 県家庭教育アドバイザー、最上地区読み聞かせサークル連絡協議会会員、行政職員、保育士、図書館職員、地域コーディネーター等  
(参加者58名)

### 3 内 容

#### (1) 事例発表：真室川町まちなか図書館構想の取組み

発表者：矢口しのぶ 氏（真室川町教育員会 社会教育指導員）

##### ○まちなか図書館について

- ・真室川町内の6か所に設置している。(駅、理容店、銀行、歯科医院など)
- ・寄贈や除籍本を活用。店舗では、店舗所有の本を利用している。

##### ○ブックスタート事業について

- ・3、4か月検診時に、ファーストブック&オンリーブックを、年中児検診時にブックスタートプラス事業とし、本のプレゼントをしている。

##### ○図書館パートナーズ

- ・16人のメンバーが、ブックコーティングや図書整備などの活動をする。

#### (2) 講演：乳幼児期から育む読育の方策

講師：渡邊裕子 氏（県家庭教育アドバイザー）

##### ○読み聞かせは、赤ちゃんがおなかの中にいるときから

- ・お母さんの声を届ける。読み聞かせでなくても語りかけて。

##### ○乳幼児期の読み聞かせが自己肯定感を育む

- ・子どもが選んできた本を読んであげる。たとえ失敗した選書でも。

##### ○動画よりも絵本を

- ・絵本なら、ページとページの間にある時間で、想像をふくらませることができる。ページのめくり方にも工夫ができる。
- ・絵本の読み聞かせを通して、読み手と聞き手の間でコミュニケーションをとることができる。

#### 【事例発表】



#### 【講演】



#### 【情報交換】



### 4 感染防止の工夫

会場とオンラインのハイブリッド開催にした。情報交換の場所を広く確保し、参加者同士の間隔を広く取るようにした。

### 5 参加者のアンケートから

- ・これからもこのような研修会をお願いします。同じ活動をしている方との出会いも貴重です。
- ・絵本の紹介があり、どれもおもしろく、子どもたちに読んであげたいと思いました。
- ・真室川町の事例を、自分たちの町の図書担当や行政の方に聞いてもらい、取り入れていてもらいたいと思いました。

## 置賜地区「読育推進ネットワーク研修会」

テーマ「想像力を育もう！～子どもと一緒に絵本の世界へ～」

- 1 期 日 令和3年7月8日（木）
- 2 会 場 赤湯公民館（えくぼプラザ）
- 3 参加対象 公立図書館（室）職員、市町担当者、保健師、子育て支援センター指導者、読み聞かせサークル、子育てサークル、幼稚園・保育所等関係者、小中学校図書館担当者、小中学校教員、PTA関係者等（63名）



### 4 内 容

- (1) 事例紹介 「読書活動と伝統行事や郷土の暮らし」  
小出 稔 氏（白たか子どもの本研究会会長）
- (2) 講 演 演題 「想像力を育もう！～子どもと一緒に絵本の世界へ～」  
講師 渡邊 裕子
- (3) ワークショップ わたしの推しの1冊！「想像力を育む読み聞かせ」



### 4 感染防止の工夫

- ・検温票の提出（入場時の検温）、手指消毒設備の設置、マスク着用
- ・間隔をあけた座席の配置

### 5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- 改めて絵本の楽しさを自分が知りました。感想は聞きたくなるけど聞かない。答えは1つじゃない。答えなどない事が想像力を育てる。大事なことを教わりました。
- 親子が寄り添いながら絵本を読むことで、いろんな想像力が膨らんでいくことがわかりました。
- 先生の豊かな感性に触れ、自分自身もっと高めていけたらと感じました。これからも読み聞かせ活動に携わっていく上での心の持ち方を学ばせていただきました。
- 毎日読み聞かせを行う中で、作業的になったり、知識を与えなくなったり、純粋に絵本を楽しめていなかったと思います。余裕のある時は絵本選びから私自身が楽しみ、子供たちとしあわせを共有していけたらと感じました。

## 庄内地区「読育推進ネットワーク研修会」

テーマ「子どもと本と仲間をつなぐ研修会 ～読書への楽しいきっかけ創り～」

- 1 期日・会場 令和3年11月18日(木)・三川町子育て交流施設テオトル
- 2 参加対象 子どもの読書活動にかかわっている方、読み聞かせボランティア、社会教育課・保健福祉主管課・子育て支援課・図書館職員、保育士、学校・幼稚園教諭 等(参加者43名)

### 3 内 容

<第1部>実践交流(50分)

- (1) 読み聞かせの実演 実演団体①温海絵本読み聞かせ隊ポッケ(鶴岡市)  
②八幡よみきかせ隊(酒田市)

(2) 感想・質問の交流

<第2部>講話「読書への楽しいきっかけ創り」(50分)

講師 本間俊美氏(この本だいすきの会庄内支部事務局長)

- 内容
- 読書への … 「読書への偏見度」チェック
  - 楽しい … 子どもが「楽しい!」と思うときは
  - きっかけ … きっかけの種蒔き  
～子どもの「楽しい!」に寄り添って～
  - 創 り … コラボというチャレンジ  
～ネットワークを生かそう～



### 4 感染防止の工夫

- 受付時の検温、手指消毒
- マスク着用の徹底 ○座席の間隔

### 5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 実演がとてもよかった。どんな本を読み聞かせするか?と悩んでいたが、年齢にこだわらず、自分の好きな本を読んでいこうと思う。
- 絵本の大切さについて改めて考えさせられた。自分はどんなきっかけで読書が好きになったのか考える機会となった。



## ◆読育推進連携講座◆

### 村山地区「読育推進連携講座」

テーマ 「図書館で ほっこり あったか 冬じたく」

- 1 期 日 令和3年10月30日（土）
- 2 会 場 山形県立図書館 遊学館
- 3 参加対象 3歳～小学3年の子どもと保護者（参加者37名）
- 4 講 師 ○館内探検

山形県立図書館 調査相談主査 鈴木 洋子 氏  
主 事 木村 朝香 氏

○紙しばいの実演

山形紙芝居研究会

折原由美子 氏

### 5 内 容

#### (1) 館内探検

- ・各フロア、各コーナーの見学と紹介



#### (2) 絵本を読む時間

- ・テーマに沿った絵本や紙しばいなどの紹介

#### (3) 紙しばいの実演

- ・折原氏自作の紙しばい  
「なでら山のさるとばあちゃん」  
「すもうをとった仁王様」



#### (4) ものづくり体験

- ・紙しばいからつながる工作「トントン紙相撲」



### 6 感染防止対策

- ・参加人数の制限 ・受付時の検温 ・対人距離の確保 など

### 7 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・紙しばいの流れからの紙相撲作りは、子供も楽しめたようでよかった。
- ・大人が楽しんでいると子供も楽しんでくれることが多いので、「大人と一緒に楽しめる本」を導入として、本と触れあう機会が作れるとよいのではないかと。
- ・読育を通して、様々な本に出会ったり、体験したりすることができた。親子の関わりを深めることに繋がると思う。

## 最上地区「読育推進連携講座」

### テーマ 「星にねがいを☆プラネタリウムで星空体験」

- 1 期日・会場 令和3年7月10日（土）  
最上広域市町村圏事務組合教育研究センター
  - 2 参加対象 年中児以上の幼児、小学校1・2年生の親子  
参加者計57名（幼児11、児童18、保護者28名）
  - 3 内容
    - ア プラネタリウム体験 講師：最上広域市町村圏事務組合教育研究センター 矢口徹 氏
    - イ 移動図書館体験 講師：新庄市立図書館職員
    - ウ おはなし会・ものづくり体験（星のしおりづくり）  
講師：最上町読み聞かせサークル「めたせこいや」  
木と音の会 泉谷貴彦 氏  
最上教育事務所職員
- ※3つのグループに分かれて、ア・イ・ウの3つの講座を交代で体験
- 4 感染防止の工夫  
マスクの着用の徹底、検温と消毒を実施した。プラネタリウムの1回の人数を通常より減らして実施した。
  - 5 参加のアンケートから（記述抜粋）
    - ・プラネタリウム、初体験でした。すばらしかったです。
    - ・親子で参加できてとても楽しかったです。久しぶりに本を借りました。また図書館に行ってみようと思います。
    - ・きれいな星を見たり、音楽を聴きながらの読み聞かせ、とってもよかったです。

【おはなし会】



【フリー読書】



【移動図書館】



## 置賜地区「読育推進連携講座」

### テーマ 『プラネタリウムで見る「星空絵本」』

- 1 期 日 ①令和3年11月 6日(土)  
②令和3年12月12日(日)
- 2 会 場 米沢市児童会館
- 3 参加対象 ①米沢市内在住の年中～  
小学3年生とその保護者  
②置賜在住の4歳以上のお子  
さんとその保護者  
参加者 ①親子16組49名  
②親子20組57名



#### 4 内 容

講師：渡部 忍 氏 (劇団「ぬーぼー」元団長)

皐月 れみ 氏 (劇団「のら」元団員)

第1部 動画：アンドロメダ銀河映像

絵本「みつけたよ、ぼくだけのほし」(11月6日)

絵本「クリスマスをわすれたサンタクロース」(12月12日)

絵本「さわってごらん! よるの星」

第2部 解説「黄道12星座」

絵本「ほしぞらでんしゃりゅうせいごう」

第3部 絵本「おやすみ、わにのキラキラくん」

解説「冬の星座」

絵本「おほしさま、きえちゃった」

動画：オリオン星雲全天周映像



#### 4 感染防止の工夫

- ・11月6日(土)は、会場がある米沢市内在住者に限定して募集した。
- ・受付に手指消毒設置、マスク着用
- ・間隔をあけた座席の配置

#### 5 参加者のアンケートから (記述抜粋)

- 宇宙の中にいながらステキな絵本を読むことができる感覚がとても楽しく新鮮でした。居心地が良くてずっと浸っていたい気持ちになりました。
- 星空、海中、雲の中、どれも幻想的でとても素敵な癒しの時間を過ごすことができました。プラネタリウムで絵本を見ることができるとは思ってもみなかったのですが、とても良かったのでぜひ定期的開催してほしいです。
- 星空と絵本が上手く組み合わせられていて楽しかったです。
- 図書館にはいろいろな本があって、星の本は見たことがなかったので今度探してみようと思いました。
- プラネタリウムと絵本の読み聞かせを同時に楽しめたのでよかったです。子どもと会話をしながら見ることができたので、とてもいい時間になりました。息子も「楽しかった、また行きたい!」と言っていました。

## 庄内地区「読育推進連携講座」

テーマ からだで自然をかんじよう！～ネイチャーゲームと絵本の世界へ～

- 1 期日・会場 令和3年10月2日（土）・酒田市眺海の森ピクニックランド
- 2 参加対象 親子10組26名（小学生12名・幼児3名・保護者11名）
- 3 内 容 絵本の読みかたり＋ネイチャーゲーム

講師：この本だいすきの会庄内支部 齋藤まき氏

山形庄内ネイチャーゲームの会 佐藤裕子氏・池田留美氏

- (1) 【ネイチャーゲーム】宝さがし
- (2) 【読みかたり】「もりのてぶくろ」
- (3) 【ネイチャーゲーム】見つけて！森のおみやげ
- (4) 【読みかたり】「わたしのワンピース」
- (5) 【ネイチャーゲーム】森の美術館
- (6) 【大人対象】ブックトーク  
【子ども対象】マイクロハイク

### 4 感染防止の工夫

検温シートの提出、マスク着用の徹底

### 5 参加のアンケートから（記述抜粋）

- 読み聞かせ＋体験もできると、ワクワクがいっぱいでとってもいいと思います。これからもこういう体験をしていきたいです。
- 自然体験のイベントは「星を見る」や「自然素材で何か作る」が多いので、今回のようなネイチャーゲームは初めて参加しました。とても面白かったです。
- いろいろな体験ができ、いつもと違う視点で見られて面白かったです。本もたくさん紹介していただき、よかったです。



親子で記念写真

※この時だけマスクを外して撮影しました。



読みかたり「もりのてぶくろ」



ネイチャーゲーム「見つけて！森のおみやげ」



ネイチャーゲーム「森の美術館」



子ども対象：ネイチャーゲーム「マイクロハイク」